

小泉 仰教授年譜（一九二七・二・十四・―）

| | | | |
|--------------|-------------------------------------|---------------|--|
| 一九二七年 二月 十四日 | 小泉治・ひさの次男として東京市渋谷区鷺谷町に生まれる | 一九五九年 六月 | 日本デューイ学会入会 |
| 一九三三年 四月 | 東京市渋谷区立猿楽小学校に入学 | 一九五九年 七月 四日 | 上記助手職を休職し、Fulbright Travel Grant と Dewey Society Scholarship を受け、Indiana University International Center に orientation に参加 |
| 一九三九年 三月 | 同校卒業 | 一九五九年 八月 三十一日 | |
| 一九三九年 四月 | 青山学院中等部入学 | | |
| 一九四四年 三月 | 同校中等部卒業 | | |
| 一九四四年 四月 | 官立横浜工業専門学校電気化学科入学 | | |
| 一九四七年 三月 | 同校卒業、横浜工業専門学校はこの年横浜国立大学工学部に昇格 | 一九五九年 九月 | |
| 一九四七年 四月 | 横浜国立大学工学部電気科研究助手 | 一九六〇年 八月 十九日 | |
| 一九四八年 三月 | 同大学研究助手退任 | 一九六〇年 九月 一日 | |
| 一九四八年 九月 | 慶応義塾大学文学部哲学科倫理学専攻（旧制）入学 | | |
| 一九四九年 十二月 | 日本基督教団中渋谷教会のクリスマス礼拝において故山本茂男牧師により受洗 | 一九六一年 七月 四日 | |
| 一九五〇年 九月 | 慶応義塾大学文学部（旧制）卒業 | | |
| 一九五〇年 十月 | 慶応義塾大学文学部旧制大学院哲学専攻入学、日本倫理学会入会 | | |
| 一九五三年 四月 | 文部省前期特別研究生就任 | 一九六一年 七月 三十一日 | |
| 一九五六年 四月 四日 | 本橋和子と結婚 | 一九六一年 九月 八日 | |
| 一九五六年 四月 | 文部省後期特別研究生終了。慶應義塾大学文学部大学院（旧制）退学 | 一九六二年 四月 | |
| 一九五八年 二月 二日 | 長男徹生まれる | 一九六四年 四月 | |
| 一九五八年 四月 | 慶応義塾大学商学部助手（日吉所屬）に就任し倫理学担当 | 一九六四年 六月 | |

一九六五年 五月

習得

浄土宗増上寺付属三康文化研究所において同研究所員で早稲田大学の峰島旭雄氏と共に明治思想史研究会(後改称して比較思想研究会とす)を開き、西周の研究を始める。後にこの会に大正大学の故曰木淑夫氏、早稲田大学の小山宙丸氏、亜細亜大学の中里良男氏、芝浦工業大学の伊藤友信氏が加わり、今日も継続して近代日本における比較思想史を研究す

一九六七年 四月

慶応義塾大学商学部助教授(日吉所屬)から文学部倫理学専攻助教授(三田所屬)へ移籍される

一九六九年 一月

慶応義塾大学言語文化研究所の援助の下に上智大学神学部の聖書学者 Karl Walkenhorst 教授の指導でヘブル語研究会に参加しヘブル語による旧約聖書研究を始める。参加者は慶応義塾大学文学部教授兼言語文化研究所副所長松本正夫氏、言語文化研究所員牛田徳子氏、慶応義塾大学の湯川武氏、片桐典子氏、武蔵工業大学の多井一雄氏、後に東京神学大学の大住雄一氏その他が加わる。会員に途中変動があったが、今日も研究会は続行されている

一九六九年 四月

慶応義塾大学文学部倫理学専攻教授就任

一九七〇年 四月

慶應義塾大学大学院文学研究科委員に就任 Karl Walkenhorst 教授指導下のヘブル語研究会においてシリア語を学び始める

一九七〇年 五月

NHK第二ラジオ放送で「世界の教育…ソクラテス」討論参加

一九七一年十二月 二日

父治死す。享年七十七歳

一九七三年 十月
一九七四年十一月 十七日

日本デューイ学会常任理事就任

慶応義塾・中津市共催の福沢諭吉先生記念講演会に出席し「福沢諭吉の宗教観」を講演す

一九七六年 三月 二十六日

実践女子大学の新田大作教授を主査として哲学交渉史研究会に参加し一九八六年二月までの十年間、文部省科学研究費の援助を受けて中国、欧米、日本の哲学思想交渉史の研究に従事

一九七六年 六月 五日

日本イギリス哲学会設立総会に参画し、同学会常任理事に就任し、学会誌編集委員長に就任

一九七八年 十月 十七日

早稲田大学社会科学研究所例会講演会に出席し「明治啓蒙思想家と日本の近代化——西洋からのインパクト」を講演

一九七七年 四月

——一九七九年 三月

NHK放送文化基金の援助を受けて「道徳番組改善のための児童、生徒の価値意識調査」の会を主査として組織し、調査に従事、NHKに対して報告書三点を提出す

一九七八年 四月 九日

一九七八年 十月 二十七日

日本基督教団中渋谷教会長老就任
東京都港区成人大学公開講座にて「現代に生きる子供たち」を講演

一九七九年 四月

——一九八一年 三月

早稲田大学社会科学研究所特別研究員となる

一九七九年 四月

——一九八〇年 三月

「児童、生徒の価値意識調査研究(小泉主査)」に対して慶応義塾福澤基金の研究補助金を受けて、研究を続行

一九七九年 五月 五日

NHK総合テレビで「子どもは今何を求めているか」に出演し報告・討論に参加

一九七九年 五月 二十五日

——二十七日

八王子大学共同セミナーに参加し「明治思想家はどこまで西洋哲学を理解したか」を

- 一九七九年 十月 十八日 担当
早稲田大学社会科学研究所公開講演会に出
席し「大西祝——良心論の独自性」を講演
聖泉女子大学キリスト教文化科主催講演会
に出席し、「エレミヤと内村鑑三」を講演
東京プレス・センターにて放送文化基金セ
ミナー講演会に出席し「現代子供の価値意
識」を講演
- 一九七九年 十月 二十七日
「児童、生徒の価値意識研究」に対して慶
應義塾福澤基金より援助をうけて研究を続
行
- 一九八〇年 四月
——一九八一年三月
上智大学神学部の Karl Walkenhorst 教授の
アラム語研究講座に参加し、ダニエル書二
章より七章までを読了
- 一九八〇年 五月 十三日
早稲田大学政治経済研究所例会講演会に出
席し、「子供の価値意識」を講演
- 一九八一年 九月 二十六日
交詢社にて福沢諭吉協会講演会で講演「福
沢諭吉と仏教」を行う
- 一九八一年 十一月 二十日
哲学交渉史研究会公開講演会において「西
周における統一科学の発想と人間性論の形
成」を講演
- 一九八一年 十一月 二十四日
神奈川県横浜市汲澤高等学校 PTA 公開講
演会において「孤立状況とパチンコ型人間
の出現」を講演
- 一九八二年 九月 二十五日
早稲田大学社会科学研究所において公開講
演会「現代子供の価値意識——子供の孤立
意識」を講演
- 一九八三年 二月 八 日
厚生省生命審議会において「生命観の变革
を求めて」なる講演を行う
- 一九八三年 九月
慶応義塾福澤研究センター運営委員就任
- 一九八三年 十二月
青山学院大学教授坂本百大氏を主査とする
- 一九八四年 一月 十日
生命倫理研究会で文部省科学研究費の援助
を受けて共同研究を行う
- 一九八四年 一月 十四日
慶應義塾福沢諭吉先生生誕記念会で「福沢
諭吉における徳育思想の特質」を講演
- 一九八四年 一月 十四日
八王子大学セミナーに出席し特別講義「罪
と救い——エレミヤと現代」を講演
- 一九八四年 二月 二十九日
——十五日
新宿朝日カルチャ・センターにおいて
「西洋哲学史——ミル、ダーウイン、スペン
サー」を特別講義す
- 一九八四年 三月 十四日
日本倫理学会評議員就任
- 一九八四年 三月 二十九日
福沢諭吉生誕百五十年記念福沢諭吉展覧会
の運営委員となり、且つ日本橋三越本店の
小講演会で「福沢諭吉と仏教」を講演
- 一九八四年 十月 十九日
日本倫理学会事務局を慶応義塾大学倫理学
研究室に置く。同学会臨時常任理事代行を
務める
- 一九八五年 四月 一日
福沢諭吉生誕百五十年記念福沢諭吉展覧会
の三越横浜店開催に際してティーチ・イン
講演会で「福沢諭吉における抵抗精神とナ
シヨナリズム」を講演
- 一九八五年 四月 四 日
比較思想学会理事就任
- 一九八五年 六月
麗澤大学モラロジ研究所主催の道德教育
国際会議運営委員を引き受ける
- 一九八五年 七月
日本イギリス哲学会編集委員長を辞任し、
同学会関東部会主催校務を引き受ける
- 一九八六年 四月
慶応義塾福澤研究センター所長就任
- 一九八七年 四月
麗澤大学モラロジ(後モラロジ)と改称)
研究所主催の国際会議に運営委員且つ報告
者として参加し、「日本の子どもたちの精
神状況の側面と父母の役割」を報告
- 一九八七年 八月 二十五日
麗澤大学モラロジ研究所において「孤立
- 一九八八年 二月 十日

| | | | |
|---------------|---|---------------|---|
| 一九八八年 三月 | 型社会と道徳教育」を講演 Downing College, Cambridge University の慶 応訪問研究員として研究に従事 | 一九九四年十二月 | 論」をラジオ番組として放送す 三田教育会に招かれ「福沢諭吉と教育勅 語」を講演 |
| 四月 二十七日 | 母ひさ死す。享年九十一歳 | 一九九一年 三月 二十六日 | |
| 五月 十日 | ケンブリッジ大学東洋学部日本学専攻で “Christianity and the early Meiji Japanese Thinkers”を講演 | 一九九一年 三月 三十一日 | 慶応義塾大学文学部倫理学専攻教授並びに 文学研究科委員退任 |
| 一九八八年 四月 | 慶応義塾大学言語文化研究所運営委員 | 一九九一年 四月 | 国際基督教大学教養学部社会科学科及び大 学院比較文化科教授就任 |
| 一九八八年 十月 | 慶應義塾福沢研究センター所長退任 | 一九九二年 三月 | 同大学教授退任 |
| 一九八八年 十二月 | 文部省「倫理」改善評議会委員 | 一九九二年 四月 | 国際基督教大学教養学部社会科学科及び大 学院比較文化科特任教授就任 |
| 一九八九年 四月 八日 | 福沢諭吉協会主催五回講座「福翁百話」 を読む」を特別講義 | 一九九二年 五月 二十二日 | 日本イギリス哲学会会長就任 |
| 五月 六日 | | | 清里清泉寮において行われた国際基督教大 学教養学部社会科学科 Freshman Retreat で 「学ぶこと・読書・人との出会い」を講演 |
| 六月 十七日 | | | 慶応義塾大学医学部倫理委員会特別委員を 委嘱される |
| 七月 八日 | | 一九九二年 七月 | NHKラジオ三十分番組「宗教の時間」に おいて「福沢諭吉と仏教」を放送 |
| 一九九〇年 一月 二十三日 | 慶応倶楽部に招かれ交詢社にて「福沢諭吉 と宗教」を講演 | 一九九二年 十一月 八日 | 日本学術振興会及び中国社会科学学院日本研 究所の招請により中国に出張し、論文博士 指導を行い、さらに講演を行う |
| 一九九〇年 五月 十六日 | 小泉信三記念講座講演会にて「福沢諭吉の 学問論」を講演 | 一九九二年 十一月 十四日 | 中国社会科学学院日本研究所で「福沢諭吉の 文明選択の論理」の講演を行う |
| 一九九〇年 六月 二十八日 | 早稲田大学社会科学研究所講演会で「二つ の比較文明論——『文明論之概略』と『東西 文明之調和』」なる講演を行う | 十二月 二十一日 | 山東省青島大学日本語科にて講演「『丁丑 公論』と『瘡我慢の説』に現れた福沢諭吉 のナショナリズム」を行う |
| 一九九〇年 三月 八日 | 慶応義塾大学文学研究科に提出した主論文 『西周と欧米思想との出会い』及び副論文 『ミルの世界』と「福澤諭吉と仏教——福 翁百話」を中心として」に対して文学博士 の称号を授与される | 十二月 二十三日 | 北京大学名誉教授周一良氏及びアジア太平 洋研究所所長黄心川氏と日中思想の比較に ついて質疑を行う。 |
| 一九九〇年 四月 | 東洋大学井上圓了記念学術研究センター運 営委員を委嘱される | 十二月 二十六日 | 功利主義国際会議開催のための運営委員とし て主催者「橋大学教授永井義雄氏に協力す |
| 一九九〇年 十二月 | 放送大学特別講義として「福沢諭吉の学問 | 一九九三年 一月 一八日 | |

- 一九九三年 五月 三日
一橋大学社会科学古典資料センター主催講演会で「ミルと西周」を講演
- 一九九三年 六月 二十四日
日本学術振興会及び中国社会科学院日本研究所の招請により中国に出張し論文博士指導を行う
- 六月 二十五日
中国社会科学院研究生院にて発題「中国文化と日本文化の交流と比較」を報告し質疑を行う
- 六月 二十八日
中国社会科学院日本研究所で講演「荻生徂徠、J・S・ミル、西周」を行う
- 六月 二十九日
河北省保定市河北大学にて「西洋文明と明治思想家——福沢諭吉と西周」の講演を行い、さらに同日夜、同大学日本研究所の孫机中氏らと会談す。
- 一九九三年 八月 二十七日
The European Society for Asian Philosophy 主催の University of Nottingham で開催された International Conference on Morals and Society に招待され、「Fukuzawa Yukichi and Religion」を報告。なお同日 The European Society for Asian Philosophy の an advisory editor に選任される
- 一九九三年 九月 二十九日
国際基督教大学図書館公開講演「福沢諭吉と宗教」を行う。
- 一九九四年 三月 三十一日
日本イギリス哲学会会長退任、引き続き同学会常任理事
- 一九九四年 八月 二十七日
The Fourth International Conference for Utilitarian Studies の開催に当たり運営委員として準備と共に八月二十八日に報告「Ogyu Sorai, J. S. Mill, and Nishi Amane」を発表し、且つ司会を担当する
- 一九九四年 十月
日本倫理学会評議員退任
- 一九九五年 二月 二十四日
Karl Walkenhorst 上智大学名誉教授指導下のエレミヤ書研究会においてエレミヤ書五十二章までを読了す。研究ノートを作成するために引き続き第一章よりマソラ本文（ヘブル語）、タルグム（アラム語）、セプチュアギンタ（ギリシャ語）、ベシッタ（シリア語）の文献比較を中心とした低等批評を改めて行うことを定める
- 一九九五年 三月 三日
国際交流基金と中国国家教育委員会の招請により北京日本学研究中心にて派遣専門家（客員教授）として近代日本思想史の講義と思想史演習講座、半期の研修生コース思想史概論を担当
- 四月 十四日
中国中日関係史学会及び北京中日関係史学会の招待講演会で「内村鑑三研究（聖書）対日本の影響」を講演
- 一九九五年 五月 十八日
中国社会科学院日本研究所にて「内村鑑三と非戦論」を講演
- 一九九五年 六月 一日
北京日本学研究中心にて「福沢諭吉の女性論」を講演
- 一九九五年 七月 七日
天津社会科学院日本研究所にて「福沢諭吉の女性論」を講演
- 一九九五年 八月 六日
日本基督教団中渋谷教会にて「中国事情——一九九五年」を講演
- 一九九六年 一月 二十七日
比較思想学会例会にて「私の接した中国と中国日本学の動向」を講演
- 一九九六年 六月 八日
比較思想学会岡山大学大会シンポジウム「大西祝」発題
- 一九九七年 三月 三十一日
国際基督教大学教養学部社会科学科及び比較文化科特任教授退任

他大学出講

日本大学、静岡大学、東京大学、東洋大学、茨城大学、早稲田大学、慶応義塾大学、東電学園大学部

小泉 仰教授業績一覧

単 著

- 一、一九六四年五月十九日 『ミル』牧書店 vii 頁＋一五七頁。
二、一九七〇年十一月二十日 『道徳教育の哲学』東京堂出版、一六二頁。
三、一九七九年四月 『現代に生きる児童・生徒の価値意識調査
(1)——家庭に関する調査』慶応義塾大学
産業研究所社会心理学研究班モノグラフ
『組織行動研究』NO・一一、六六頁。
『福澤諭吉の徳育思想の特質』福澤記念選
書三三、慶応義塾、三三二頁。

- 四、一九八四年七月一日 『ミルの世界』講談社学術文庫、三五八頁。
五、一九八八年五月十日 『倫理学』慶応通信社、一四〇頁。
六、一九八九年四月十日 『西周と欧米思想との出会い』三嶺書房、
まえがきi—vi 頁、三八六頁。
七、一九八九年七月十日 『中村敬宇とキリスト教』北樹出版、一三
二頁。
八、一九九一年五月二十日 『学々こと・読書・人々の出会ひ』ICU
Freshman Retreat Speech Series, p. 17.

- 九、一九九二年五月二十二日

報告文書(NHKに提出)

- 一、一九七七年十月

- 二、一九七八年一月

単著『道徳番組改善(NHK)のための児童
生徒の価値意識調査——中間報告』慶大
倫理学・社会心理学教室、一一五六頁。
単著『道徳番組改善(NHK)のための児童

- 三、一九七九年二月

編著、共著、分担執筆

- 一、一九六三年九月

- 二、一九六三年十月

- 三、一九六七年六月

- 四、一九六七年九月

- 五、一九六八年三月

- 六、一九六九年一月

- 七、一九七一年

- 八、一九七二年九月

- 九、一九七二年十一月

- 一〇、一九七四年二月

- 一一、一九七四年十二月

- 一二、一九七五年五月

生徒の価値意識調査——続中間報告』慶大
価値意識調査会、一九八頁。

単著『道徳番組改善(NHK)のための児童
生徒の価値意識調査——最終報告』慶大価
値意識調査会、一一一三六頁。

分担執筆『科学時代の道徳』『科学時代の
道徳』講座・科学時代の哲学II、一二七—
一四七頁。

共編著『倫理と社会の間』牧書店、六五九
頁＋索引二二頁。

分担執筆『正義・勇気』『小学校道徳価値
研究』明治図書、九二二九頁。

分担執筆『公平・公正』『小学校道徳価値
研究』明治図書、九二二八頁。

分担執筆『十九世紀価値論への挑戦——
G・E・ムーアの価値論』『価値』岩波哲
学講座 九、一八三—二〇頁。

分担執筆『道徳と欲望の問題』『教育学全
集 一五』小学館、九七—一一五頁。

分担執筆『倫理学』『毎日年鑑』
共著『現代道徳の論理』東洋館、五三—
二九頁。

共著『道徳と教育』東洋館、七九—一〇九
頁。

分担執筆『ロックの教育思想』『教育思想』
学文社

共著『悪と死——倫理の課題』二玄社、八
六—一八四頁、五四—一一四頁。

共著『明治思想家の宗教観』大蔵出版、一

- 一三、一九七五年十月
分担執筆「規範的デイスコースの論理」『碧海純一編『法学における理論と実践』学陽書房、一〇四—一三四頁。
- 一四、一九七七年一月
分担執筆「敬天より敬天愛人へ」『明六社』『日本思想史講座 近代の思想』三、雄山閣、三一—五頁、四五—五六頁。
- 一五、一九七七年三月
分担執筆「ヘブル思想の特質——残りの者の思想とその発展」『東西思想形態の比較研究』東京書籍、三八—四〇三頁。
- 一六、一九七七年七月
分担執筆「ユダヤ哲学」『西洋哲学史の基礎』有斐閣。
- 一七、一九七七年十月
分担執筆「近代日本の良心論——西周と大西祝の場合」『日本倫理学会編『良心』以文社、九九—一一八頁。
- 一八、一九七九年四月
共著『転換期の倫理』北樹出版、一七一—二〇四頁。
- 一九、一九七九年 月
共編著『比較思想のすすめ』ミネルヴァ書房、二一—一三六頁。
- 二〇、一九八〇年二月
分担執筆「現代こどもの価値意識」『幼年期とテレビ』放送文化基金刊、六三—七九頁。
- 二一、一九八〇年十月
分担執筆「子どもたちの価値意識は」『道徳指導と放送』日本放本放送教育協会編、三〇—四〇頁。
- 二二、一九八一年二月
分担執筆「橋本孝」『宮崎友愛』『山田孝雄編・近代日本の倫理思想』大明堂
- 二三、一九八一年七月
澤論吉選集「一巻」岩波書店、三〇六—三三三頁。
- 二四、一九八二年九月
分担執筆「大西祝——良心論の独自性」
- 二五、一九八二年六月
分担執筆「近代日本と早稲田の思想群像」『早大百年記念出版早稲田大学社会科学研究所、一三八—一六二頁。
- 二六、一九八二年二月
共編著『近代日本哲学思想家辞典』中村元・武田清子監修、東京書籍、七七六頁。
- 二七、一九八二年六月
分担執筆「福沢諭吉——『百話』における仏教への接近」『近代日本の思想と仏教』東京書籍、二三四—二四九頁。
- 二八、一九八四年十一月
分担執筆「欧米思想との出会いを通した西周の思想形成——人間性論を中心として」『新田大作編『中国思想研究論集』雄山閣、九八—一四三頁。
- 二九、一九八七年九月十五日
共著『人間と宗教——近代日本人の宗教』比較思想史研究会編東洋文化出版（一一、共著『明治思想家の宗教観』の復刊）
- 三〇、一九八九年 月
編著『子供たちから見た世界——家庭、自己、友人、学校』勁草書房、まえがき・目次一〇頁＋本文五九九頁。
- 三一、一九九〇年十月
分担執筆「解説」『村井実著作集第四集』小学館、三六九—三八〇頁。
- 三二、一九九〇年十一月
分担執筆「生命観の変革を求めて」『新しい生命倫理を求めて』北樹出版、一〇三—一四五頁。
- 三三、一九九〇年十一月
分担執筆「二つの比較文明論——『文明論の概略』と『東西文明の調和』」『大隈重信・東西文明の調和を読む』早稲田大学社会科学研究所五〇周年記念、フマニタス選書、北樹出版、一二六—四六頁。
- 三四、一九九〇年十一月
分担執筆「ミル……市民的自由の成熟」『命題コレクション……哲学』筑摩書房、一四八—一五一頁。

三三、一九九一年二月

共編著 杉原四郎、小泉仰、山下重一 共編『J・S・ミル研究』日本イギリス哲学会研究叢書 御茶の水書房、二〇三―二二一頁。

三四、一九九二年三月

分担執筆「福沢諭吉における西洋文明導入選択の論理」イギリス哲学会編『イギリス思想と近代日本』北樹出版 九〇―一二四頁、あとがき一六二―一六六頁。

三五、一九九四年十月

分担執筆「西周」「中村敬宇」「西村茂樹」『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社

翻 訳

一、一九五六年

『オリヴァー教授講演…民主教育における倫理と公民』IDE教育資料第一集、一一二〇頁。

二、一九五六年 一月

「H・ウイルソン…教育と国民文化」『アメリカナ』アメリカ大使館第二巻一号、九九―一〇五頁。

三、一九五九年

H・A・プリッツチャード「道徳哲学は誤りに基づいているか」二二三―二四七頁。『義務と利益』三六一―三九四頁。『現代英米の倫理学』福村書店

四、一九五九年

W・ケント「科学的命名法」『アメリカナ』アメリカ大使館

五、一九六九年

共訳 J・D・ダットン『論理学演習』世界書院、六二―一三九頁、二二〇―二五〇頁。

六、一九七四年

共訳 V・R・ポッター『バイオエシックス』ダイアモンド社 一一七七頁、二二四―二七二頁。

七、一九七五年

共訳 I・イプスタイン『ユダヤ思想の発展

八、一九七七年

九、一九七七年

一〇、一九八一年

一一、一九八二年

一二、一九八四年

一三、一九九四年十一月

論 文

一、一九五四年

二、一九五五年

三、一九五六年

四、一九五六年 五月

五、一九五七年

と系譜』紀ノ国屋書店 一一―一五二頁。共訳 M・シェーラー『価値の転倒下』白水社

B・A・ジャナツシュ「ジョン・デューイの幻の形而上学」日本デューイ学会紀要 監訳 V・R・ヘア『倫理と現代社会』御茶の水書房

共訳 R・M・ヘア『道徳の言語』勁草書房 序文 i―vi頁、本文三一―一四六頁、索引 i―vii頁。

分担訳 K・エーリガー「ゼカリヤ書」『十二預言書』ATD聖書註解書刊行会 二一、九―三九六頁。

監訳 J・ガウアンロック『公開討議と社会的知性―ミルとデューイ』御茶の水書房、まえがき i―ii頁、本文一二二頁、監訳者のあとがき二三―一四〇頁。

「マックス・シェーラーにおける愛について」『哲学三〇』三田哲学会、一〇三―一二六頁。

「直観論的価値論をめぐる諸問題」『哲学三一』三田哲学会、一一五―一四二頁。

「チャールズ・スチーヴンソン倫理学の立脚点」植田清次編『論理実証主義』早稲田大学出版、一六三―一九一頁。

「三つの価値論」『言語・意味・論理』早稲田大学出版、二九九―三三九頁。

「R・ヘアの実践的三段論法」植田清次編『分析哲学の諸問題』早稲田大学出版

- 五、一九五八年
「価値判断の分析」植田清次編『科学哲学への道』早稲田大学出版、三六―三八七頁。
- 六、一九五八年
「価値の測量」植田清次編『現代哲学の基礎』早稲田大学出版、一九四―二五頁。
- 七、一九五八年
「行為について」『哲学 三五』三田哲学会、二四七―二六七頁。
- 八、一九六二年
「現代アメリカ倫理学」『哲学 四二』三田哲学会、四五―七二頁。
- 九、一九六四年
「權威主義の克服」『道德教育 四二』明治図書、一三一―一〇頁。
- 一〇、一九六四年十二月
「福沢諭吉の道德教育思想 一」『道德教育 四四』明治図書、一一二―一九頁。
- 一一、一九六五年一月
「福沢諭吉の道德教育思想 二」『道德教育 四五』明治図書、一一二―一九頁。
- 一二、一九六五年二月
「福沢諭吉の道德教育思想 三」『道德教育 四六』明治図書、一一二―一九頁。
- 一三、一九六五年
「ジョン・スチュアート・ミルの道德と快樂主義的背理」『哲学 四六』三田哲学会、二〇一―二一五頁。
- 一四、一九六五年
「科学的思想と道德」『教育の時代 四月号』東洋館、四―一五頁。
- 一五、一九六五年十月
「明治初期の倫理思想研究のための序論 西周の場合(一)」『慶大商学部日吉論文集 一』一一―三三頁。
- 一六、一九六六年二月
「明治初期の倫理思想研究のための序論 西周の場合(二)」『慶大商学部日吉論文集 三』一一―三三頁。
- 一七、一九六六年九月
「近代におけるヒューマニズムとその発展」『道德教育 六九』明治図書、五―一三頁。
- 一八、一九六六年十月
「明治初期の倫理思想研究のための序論 西周の場合(三)」『慶大商学部論文集 四』一一―二六頁。
- 一九、一九六七年三月
「西周の「行門の論理」とその適用」『哲学 五〇』三田哲学会、一一―二二頁。
- 二〇、一九六七年十一月
「現代の生活と道德意識」『道德教育 八三』明治図書、五―一二頁。
- 二一、一九六八年八月
「物、金銭に対する日本と西洋の価値観の違い」『道德教育 九二』明治図書、三三―三九頁。
- 二二、一九六九年一月
「人間観の史的変遷」『道德教育 九七』明治図書、五―一二頁。
- 二三、一九六九年四月
「Analysis of Nishi Amane's Conceptions of Legislation <Rippo>, Natural Law <Tempo>, and the Heaven <Ten> in comparison with Ogyu Sorai and J. S. Mill.' *Bulletin of Sankeo Research Institute*, pp. 8-30.
- 二四、一九六九年
「トーマス・ホッブズは自然主義者か」『デューイ学会紀要第一〇号』六〇―六六頁。
- 二五、一九六九年十一月
「西周による統一科学の試み」『哲学 五四』三田哲学会、八一―一一五頁。
- 二六、一九七〇年一月
「現代社会と価値の結節」『道德教育 九七』明治図書、五―一二頁。
- 二七、一九七〇年三月
「『百一新論』における西周の人間性論と获生徂徠」『哲学 五五』三田哲学会、六七―九六頁。
- 二八、一九七〇年
「西周の『生性発蘊』とコントの人間性論」『哲学 五六』三田哲学会、一一―二〇頁。
- 二九、一九七一年一月
「西洋思想への共鳴 西周の場合」『創文 九二』創文社、二―一六頁。
- 三〇、一九七一年九月
「プラグマチズムと現代倫理学——C. I.

- 『Leavis の場合』『日本デューイ学会紀要』特別報告、一一八—一二四頁。
- 三一、一九七一年十二月
- 『西周訳『奚殷氏心理学』と西の人間性論』『哲学 五八』三田哲学会、一七一—一九二頁。
- 三一、一九七二年八月
- 『「知説」における西周の人間性論』『哲学 五九』三田哲学会、二五—五三頁。
- 三三、一九七二年十月
- 『プラグマティズムと現代倫理学——C・I・ルイスの場合』『日本デューイ学会紀要』一一八—一二五頁。
- 三四、一九七二年十二月
- 『沢田允茂氏「ミクロ倫理学とマクロ倫理学」に対する反論』『哲学 六〇』三田哲学会、一三—三五頁。
- 三五、一九七三年
- 『福沢諭吉の宗教観——付文献』『三康文化研究所年報第四、第五号』
- 三六、一九七三年五月
- 『ヘブライ的思惟——第一期活動期における預言者エレミヤの召命、幻、罪観をめぐって』『比較思想第五号』大正大学、四二—五七頁。
- 三七、一九七三年
- 『小学校：内容研究……なぜ私たちは尊敬するのか』『道徳教育 一五四』明治図書、一〇八—一二三頁。
- 三八、一九七四年十月
- 『マソラ・テキストとベッシータの比較研究——エレミヤ十章をめぐって』『慶応義塾大学言語文化研究所紀要 六』五七—七七頁。
- 三九、一九七五年九月
- 『デューイの道徳論について』『日本デューイ学会紀要 一六』一一三—一二七頁。
- 四〇、一九七六年十二月
- 『現代功利主義論争——規則功利主義と行為功利主義』『理想 五二三』理想社、七七—九一頁。
- 四一、一九七七年二月
- 四二、一九七八年十二月
- 四三、一九八〇年
- 四四、一九八二年一月
- 四五、一九八四年四月
- 四六、一九八五年
- 四七、一九八五年四月
- 四八、一九八六年三月
- 四九、一九八六年十月
- 五〇、一九八八年一月
- 五一、一九八八年十二月
- 『明六社の人々の宗教論』『泉』文化総合出版、一二六—一二八。
- 『研究ノート……エレミヤ書における「パニーム」の用法——マソラ本文、ベッシータ、セプチュアギンタの比較を通して』『慶応義塾大学言語文化研究所紀要第十号』一四七—一七四頁。
- 『エレミヤと内村鑑三』『社会科学討究 七四』早稲田大学社会科学研究所、一—二七頁。
- 『福沢諭吉と仏教——『福翁百話』を中心として』『福沢諭吉年鑑 九』福沢諭吉協会、四六—六一頁。
- 『福沢諭吉における徳育思想の特質』『三田評論 八四六』三四—四三頁。
- 『福沢諭吉における抵抗精神とナショナリズム』『丁丑公論、瘠我慢の説、旧藩情』講談社学術文庫、一三三—一四六頁。
- 『子どもたちの精神状況と父母の役割』『塾』慶応義塾
- 『「ミル」宗教三論』と福沢諭吉の宗教観』『近代日本研究 二』慶応義塾福沢研究センター、四二三—四五六頁。
- 『Die Eigenart der Theorie der Moralerziehung bei Yukichi Fukuzawa,“ uebers. von Masako Iijima, Kultur und Erziehung, Toyokanshuppan, pp. 119-141.』
- 『「文明論之概略」と現代』『門』公文研究会
- 『J・S・ミルと福沢諭吉』『福沢手帖 五九』福沢諭吉協会、一九—二三頁。

| | | | |
|--------------|--|------------------------|---|
| 五二、一九八九年五月 | 『二十世紀末から見た国際化の問題』『三色旗 四九四』慶応義塾通信教育部、二一五頁。 | 外国学術雑誌等掲載論文 一、一九八四年 | 分担執筆：'Nishi Amane', Denis Huisman ed., <i>Dictionnaire des Philosophes</i> , Presse Universitaires France, pp. 1940-1942. |
| 五三、一九九〇年三月 | 『聖書の中のサタルとミユステリオン』『比較思想研究第一六号』比較思想学会、一〇四—一〇九頁。 | 二、一九八九年十月 | 'The Attitudes of Japanese Children and the Effects of Parental Behaviour', <i>Journal of Moral Education</i> , Volume 18, Number 3, National Foundation for Educational Research, Nelson, Slough, Windsor, England, pp. 218-231. |
| 五四、一九九〇年四月 | 『福沢諭吉の宗教観』『三田評論 九一二』慶応義塾、二六—三五頁。 | | 'Fukuzawa Yukichi and Religion', <i>Asian Philosophy</i> , Vol. 4, No. 2, University of Nottingham, England, pp. 109-117. |
| 五五、一九九〇年十二月 | 『福沢諭吉の学問論』『哲学 九一』三田哲学会、一六三—一八〇頁。 | 三、一九九四年十二月 | 「内村鑑三研究〈聖書〉対日本の影響」『中日関係史研究 一九九五年第一期総三九期』（中国語訳）中国中日関係史学会・北京中日関係史学会共編、七四—八二頁。 |
| 五六、一九九一年六月一日 | 『福沢諭吉と教育勅語』『三田教育会会報 六』三田教育会 | | Chap. 2. "Fukuzawa Yukichi and Religion," pp. 23-36; Chap. 37. "Morals and Society in Japanese Philosophy," pp. 88-105, <i>Brian Carr & Indira Mahalingham ed., Encyclopedia of Asian Philosophy</i> , Kegan Paul, London (in Press). |
| 五七、一九九一年十二月 | 『福沢諭吉と教育勅語』『福沢諭吉年鑑 一八』、一六九—一八二頁。 | 四、一九九五年六月 | |
| 五八、一九九二年五月一日 | 『英米の経験と経験論』『思想の動き二五』東方研究会比較思想学会、四—五頁。 | | |
| 五九、一九九四年三月 | 『福沢諭吉と宗教』『国際基督教大学図書館公開講演集第八集』国際基督教大学図書館、九—二四頁。 | 五、一九九七年 | |
| 六〇、一九九四年七月 | 『中村敬字と内村鑑三』『内村鑑三研究第三十号』キリスト教図書出版社、四五—七一頁。 | | |
| 六一、一九九四年十二月 | 五八よりの転載論文「福沢諭吉と宗教」『福沢諭吉年鑑 一一』、一二七—一四〇頁。 | | |
| 六二、一九九五年三月 | 'Ogyu Sorai, John Stuart Mill, and Nishi Amane,' <i>Asian Cultural Studies 21</i> , International Christian University, pp. 21-31. | | |
| 六三、一九九六年四月 | 「私の接した中国の日本学」『三田評論』第九七九号、一八—二三頁。 | | |